

アドベンチャースポーツの現状と展望に関する研究
～大会参加者を類型化し 地域の取り組むべき事項を検証する～
The present conditions and the prospects of the adventure sports

スポーツクラブマネジメントコース

5012A307-2 我部 乱

研究指導教員：間野 義之 教授

1. 緒言

近年多くの自治体が地域活性化や町おこしの一環として、スポーツに関する積極的な取り組みを行なっている。ランニングブーム現象を起こす中、エンデュランススポーツの関心の高まりが記された。その背景には、アウトドアスポーツが手軽に楽しく、おしゃれに楽しむことができる、日常生活の延長線上の活動になったこと 個人の健康やライフスタイルを具現化する「自己表現装置」になったことの2つの要因が挙げられる。

アドベンチャースポーツとは、自然に内在するリスクと向き合っていくアウトドアスポーツのことである。本研究では、マラソンや自転車などのアウトドアスポーツ全般ではなく、自然へのリスクが伴うアドベンチャースポーツを対象に研究を行なうものとする。

本研究の目的は、アドベンチャースポーツの現状を理解し今後の普及のために、密接にかかわる地域の取り組むべき事項を検証することである。

参加者の大会参加動機の要因を明らかにし、その要因を用いて、参加者を類型化する。類型化された参加者と地域の取り組みの関連性を検証する。この3段階において研究を行なうものとする。

2. 研究の方法

本研究では、地域とアドベンチャースポーツの参加者との関連性を検証するための手順として、トレイルランニングの大会参加者を対象とした2回の予備調査を行ない、参加動機のキーワードを抽出した。その上で、他のスポーツやマラソン大会、ラフティング参加者における6つの先行研究と比較して、本調査に用いる調査票を作成した。

本調査では、アドベンチャースポーツの中でも一般の人にも参加しやすいトレイルランニングと

アドベンチャーレースの参加者を対象とした。参加者(N=316)の参加動機から、探索的因子分析を行い、更にCronbachの α 係数で、尺度の信頼性を検証した。併せて、各因子の相関分析を行ない、各因子の相関も検証した。

3. 結果

本結果の分析結果として、2回の予備調査と6つの先行研究との比較から、動機づけ尺度を内的要因、外的要因の2つの要因に分け、内的要因は7つ、外的要因は5つの因子に分けた。その因子を元に本調査(上越国際トレイルフェス、エクストリームシリーズ)における調査票を作成した。

両大会において合計で361件のサンプルを得られたが、最終的に316件が対象となった。

人口統計的特性の結果を見てみると、男性70.3%、女性29.7%。年代は30代が1番多く44.5%、次が40代で27.44%であった。「上越国際トレイルフェス」は、地元新潟県からの参加者が1番を多く、首都圏(東京都、埼玉県、神奈川県、千葉県)と新潟県を合わせて76.3%を占めた。「エクストリームシリーズ」の4戦は、東京都と神奈川県の参加者が70.2%を占めた。

予備調査で行った、大会参加動機の12因子に対し、探索的因子分析を行った。その結果、4つの因子に分かれた為、第1因子を「観光」、第2因子を「挑戦」、第3因子を「健康」、第4因子を「仲間」と名付けた。

4因子の信頼性を検証する為、各因子のCronbachの α 係数を算出した。「観光因子」は0.839、「挑戦因子」は0.767、「健康因子」は0.883、「仲間因子」は0.768という結果となり信頼性があると証明された。併せて、因子ごとの相関も低く、全ての相関に有意差が見られたことから、分析の妥当性が証明された。

その上で、大会参加者を類型化するために、4 因子の因子得点をもとに、平方ユークリッド距離・ward 法による、階層クラスター分析を行い、本研究では4つのクラスターを採用することとした。

同時に、アドベンチャースポーツの大会を開催している、行政の関係者3名と、大会をプロデュースするプロトレイルランナーとプロアドベンチャーレーサーにもインタビュー調査を行った。インタビュー調査を踏まえて、アドベンチャースポーツイベントを開催する地域側のメリットとして、「自然資源の発掘と活用」「知名度向上」「交流人口の増加」という3つのキーワードが挙げられた。

4．考察

クラスター分析により類型化された参加者と地域との関連性を検証した。第1クラスター「アドベンチャーフレンドシップタイプ」の参加者は、イベントに経済効果や地域交流などを求めている地域にとって、1番メリットがある参加者と言える。受け入れ側の地域としては、仲間や家族が参加しやすい環境を整えることが必要と考える。その地域ならではの自然を活用したアウトドアイベントや、バリエーション豊富なアクティビティの提案をすることで、ファミリー層などの幅広い世代の取り込みに対する観光施策にも繋がり、経済効果も生まれてくると言える。

第2クラスター「アクティブランナータイプ」の参加者は、ランナー系の仲間と一緒に来て挑戦するようにも見られる。コースの満足度や景観の良さで評価が高くなると考える。ここに属する地域は、インターネットで情報を発信し、より自然味あふれる挑戦的なコースを提供することが必要と考える。コースのメンテナンスも地域の人々が自ら行い、四季折々の自然の様子などを地域から常に発信することで、レース以外の再訪も期待でき、地域の知名度アップに繋がると考えられる。

第3クラスター「ソロビギナータイプ」の参加者は、ビギナーもしくは1名参加が多いと考えられる。走りやすいコースや安全性が必要であり、併せて、アクセスが良く、日帰りで行きやすいところが良いと考えられる。このクラスターの参加者は、地域の印象次第でリピーターに繋がる可能性もある。その地域の特色や地元の人との触れ合いを大切にし、将来を見据えて地域のファンになってもらうことが必要であると考ええる。

最後に、第4クラスター「アウトドアリピータータイプ」の参加者は、限られた予算の中で、自然や地域を楽しむタイプと考えられる。レース以外に温泉や地域の人との触れ合い等の+αの要素が入り、1年に1回の特別な大会をアピールしていく必要がある。地域のホスピタリティや人との触れ合いを強調することで、交流人口を増やし、その地域が特別な場所であり、地域のファンになってもらうことが大切かと考える。また、地域の人々にとっても帰属意識を創出することで、愛着が増すと考えられる。

5．結論

本研究の目的でもある、アドベンチャースポーツ参加者と地域の関連性を検証し、アドベンチャースポーツの普及のために、地域がなにを実行して、どうあるべきかを考えた。全体的に参加者の挑戦因子が高いという結果は出ているが、人との触れ合いやその地域の観光要素、仲間や家族との繋がりを求めて参加している人も多くなっている。動機には様々な要素があるが、大会やイベントを行う地域も、参加者の動機や要望を明確に理解し、その地域にあった運営やマーケティングが必要となってくる。どこにでもある似たような自然をアピールするだけではなく、地域独自の特性をアドベンチャースポーツイベントに表現することによって、参加者の選択肢も増え、今後のアドベンチャースポーツの普及や発展につながっていくものと考えられる。